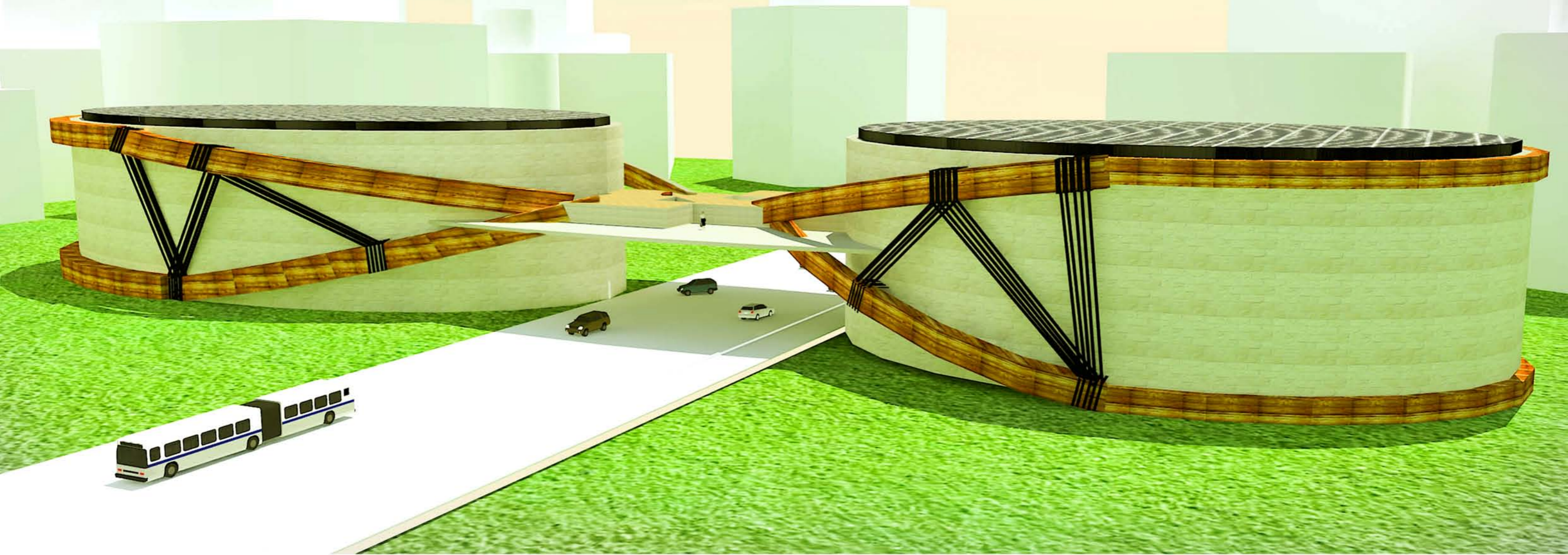


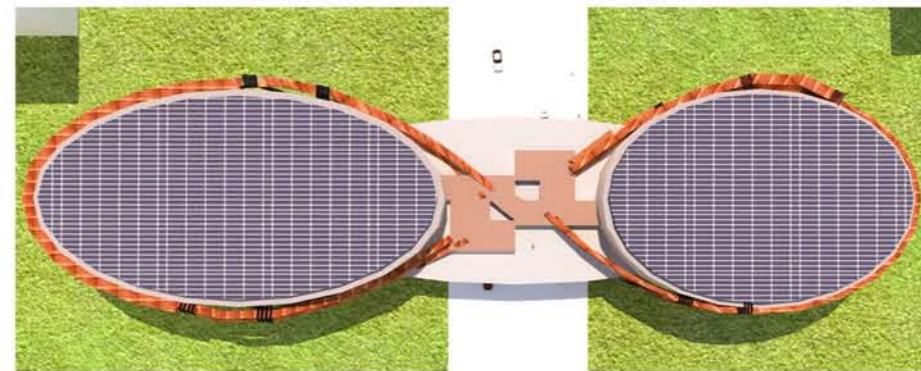
Remember You

あなたを覚えるエスカレーター

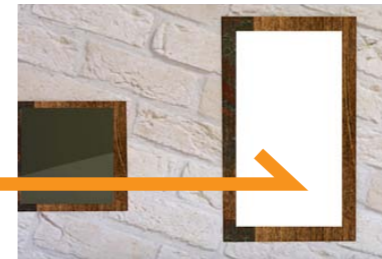


現在のエレベーターやエスカレーターの問題点は、機械的で温かみがなく心が通わないこと。その環境は、エスカレーターやエレベーターでの移動を退屈なものにしてしまうと思われる。

私たちの提案は、移動中のエスカレーターやエレベーター内では、鏡で自分の姿を見ること等をして過ごすということを利用し、常に自分を見守ってくれているような温かい感情を生み出すエスカレーターである。エスカレーターに乗るたびに自分の姿が記録、蓄積され、昔の自分と対面できる「楽しさ」を提供する。昔の自分を見れるエスカレーターということを生かすため、年代問わず様々な人々が訪れる、5階建ての大型ショッピングモールを想定施設として設定した。



Now



Back ground

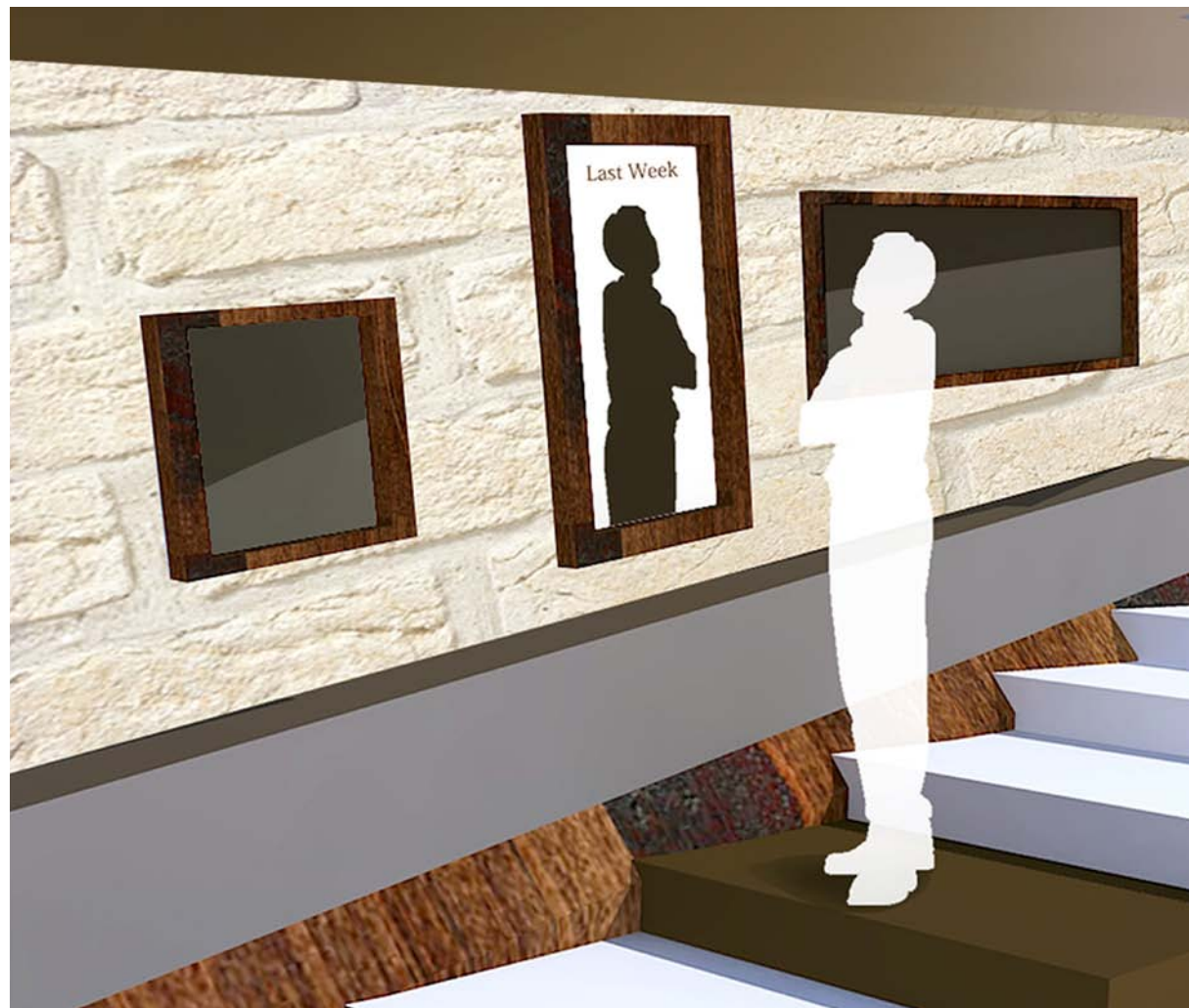
現在のエレベーターやエスカレーターにおいては、乗っている間、鏡を見ることや階数表示を見たりなど、自分だけの世界に入って過ごしていることが多いと思われる。機械的で無機質な空間が与える影響によって生み出されるこの状況がエスカレーターでの移動を退屈なものにしていると考え、より温かく常に見守ってくれているというような、人の心に響くエスカレーターを製作する。

Premium

公共の設備のままでありながら、より個人の楽しみが持てる点にプレミアム感があると定義した。つまり、個人によりフォーカスし、「自分だけの」という特別感があることで、プレミアムなものになるのではないかと考える。

“Remember You” Concept

エスカレーターでの移動中、鏡を見ているなど自分と向き合っている状態で、より人の心に響き、つながりを感じられることは、昔の自分と対面し、懐かしんだり、変化に驚いたりすることであると考えた。Remember Youは、鏡を見るという当たり前の行為を、システムによって一気に楽しく、エモーショナルな体験に変化させることが可能である。



System

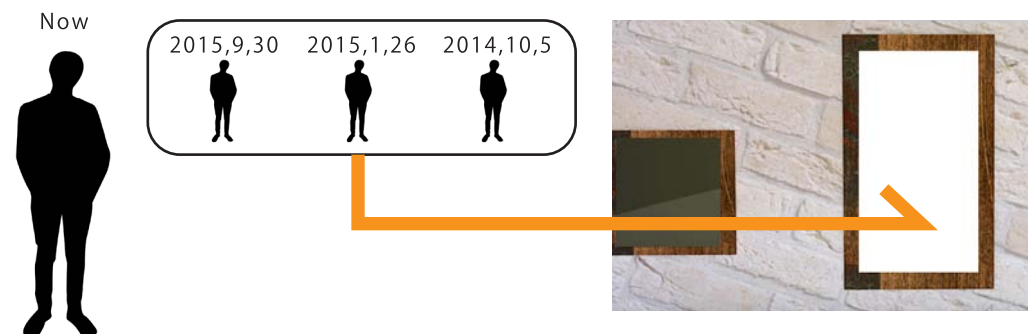
Remember You は利用者の外見データを蓄積していき、エスカレーター途中の壁のモニターに、スライド形式で表示していく。利用者の識別と表示は以下のように行う。

エスカレーター入り口のカメラで、利用者を撮影するとともに、顔識別システムを利用し、利用者データをエスカレーターへ送信し、過去の蓄積データを参照する。蓄積データがあれば、利用者が乗るエスカレーターのステップへデータを送り、壁面モニターを通過する際に、利用者の昔の姿を写す。

外見データの蓄積により、利用すればするほどこのエスカレーターの楽しみが増えるので、人々の積極的な利用が期待できるだろう。

Design Theme

昔の自分を振り返ることができるということから、デザインテーマをビンテージ調にする。素材自体は木ではなく鉄を用いるが、古びた木材調の塗装を行う。このデザインテーマを用いることにより、暖色系に囲まれた空間が作られ、機械的なイメージの強いエスカレーターに温かみを加えることができ、利用者の環境による心境に変化を与えることができると思われる。

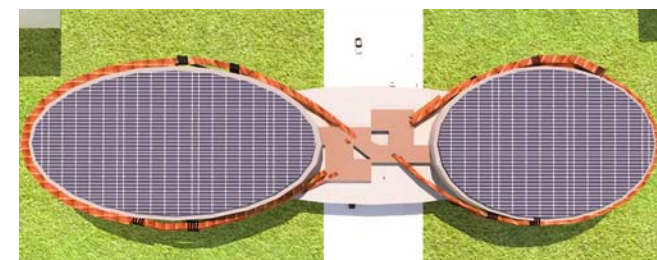
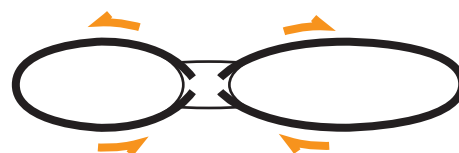
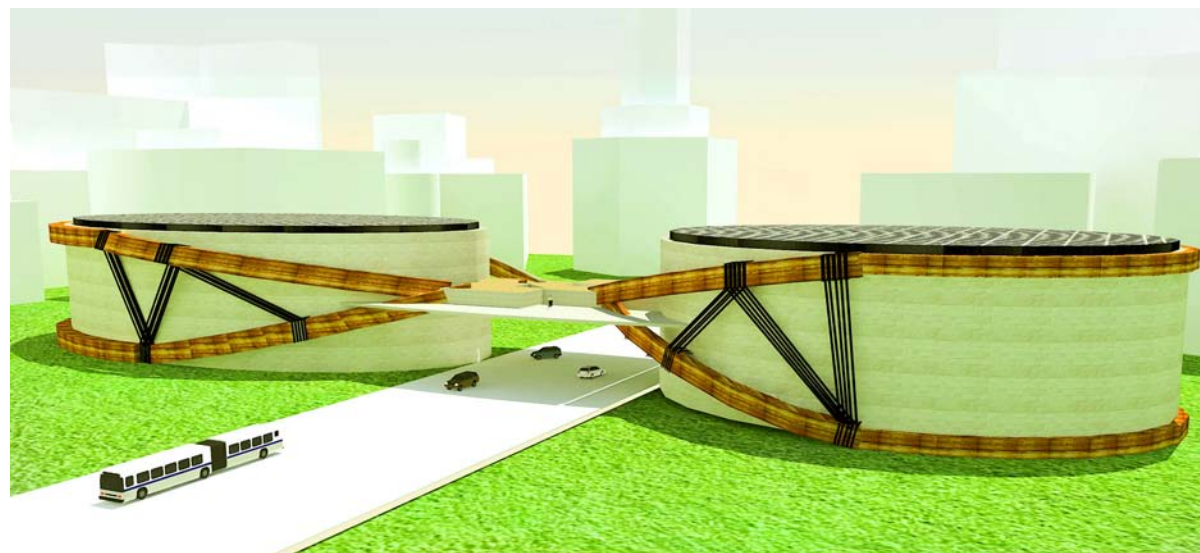


- 撮影し、データを蓄積
- 利用者を識別し、エスカレーターのステップへ識別データを送信し、関連付けを行う。

- 識別データが記録されたステップがモニターを通過する際、利用者の蓄積された過去の外見データを表示する。

Location

外見データを扱うエスカレーターの為、年代を問わず様々な人々が集まる理由から、5階建ての大型ショッピングセンター（ショッピングモール）を選んだ。このショッピングモールは、利便性を考え、交通量の多い幹線道路にまたぐように建設される。片方は立体駐車場で、もう片方は巨大モールである。エスカレーター自体は一方通行であるが、すべてのエスカレーターが3階にある中央連絡橋に集まるように設計されているので、左右どちらのビルのフロアにも簡単にアクセス可能である。また、モニター表示等により、通常のエスカレーターと比べ電力消費が多いため、モール屋上のソーラーパネルで太陽光発電を行う。



Exterior Design

インテリア同様に、エクステリアのデザインテーマも、ビンテージ調である。乗って楽しい特別なエスカレーターであることをより強調するため、エスカレーターチューブをビルの外側に取り付ける。さらに、エスカレーターを支える支柱はロープを巻いたような特徴あるデザインとし、各階のエスカレーターエントランスの場所を強調している。また、上面から見ると、エスカレーターチューブはインフィニティ（無限大、 ∞ ）の形状をしており、エスカレーター本来の、データ蓄積すればするほど楽しいという、常に更新される新しい楽しみをシンプルに記号化し表した。

